

# 児童教育を専攻する学生を対象とした英語指導における映画の活用

## Teaching English with Movies for Students Majoring in Childcare Education

吉村 圭

Kei Yoshimura

鹿児島女子短期大学

本研究では、児童教育を専攻する学生を対象に、映画を教材とした教室英語の指導を行った。保育園、小学校、高校を舞台とした映画4作品を用い、それぞれの作品から小学校「外国語活動」および「外国語」指導に必要な指導表現やほめ言葉、日常会話表現等を抽出した。作成したワークシートには、授業内で用いるディクテーション用の項目に加え、授業外学習用の表現一覧を穴埋め形式で記載した。授業では映画の一部を視聴し、そこに含まれる指導表現の予想、聞き取り、および関連表現の推測を行わせた。授業外学習では、各自で映画を視聴し、台詞のディクテーションを行うか、字幕を英語に切り替えて表現を確認するよう指示した。全15回の授業のうちその活動を11回実施し、学期末にアンケートを行った。その結果、授業内の活動としては学生たちのモチベーションに効果が認められたが、授業外学習についてはほとんどの学生が実施していないことが明らかとなった。

**Keywords :** English Education, Classroom English, Movies as Teaching Materials

**キーワード :** 英語教育, 教室英語, 映画の教材利用

### 1. 研究の目的

本研究では、児童教育を専攻する学生を対象に、海外の一般的な映画を教材として用い、小学校「外国語活動」および「外国語科」において必要な指導表現や簡単な日常表現の指導を行う。

2011年度から「外国語活動」が必修化され、新学習指導要領では2020年度に5・6年生向けの「外国語科」が教科化されることが示された。これによって小学校における英語教育はいよいよ本格的なものとなる。しかしながら、文部科学省(2017:3)も認めるように、教科を担当する指導者の間には不安が高まっているという。松宮(2013)は、「外国語活動」の指導に対し指導者が抱く不安について、調査と詳細な分析を行っている。そして「担当者の授業指導不安を生み出す重要な要因は、担当者の英語力や英語運用能力に対する不安そのものである」と指摘している(336)。福和・中津(2014)はこれから指導者を志す学生が小学校「外国語活動」の指導に対して抱く不安感について分析を行っており、その中で、学生たちは指導上の発音への不安、および励まし表現やゲーム等の進行表現への不安を抱いているというデータを示している(206)。また、木原(2017)は教科化が決定して以降に、大学生を対象に小学校における英語指導への意識調査を行っている。その中で、学生は「外国語活動」および「外国語科」指導に対して不安を感じる理由について自身の英語力不足を挙げており、今後英語で話すことおよび発音の練習が必要だと感じていることが報告されている(80-81)。いずれにおいて

も、指導者自身の英語力に対する不安が、小学校における英語指導の不安の大きな要因となっているのである。

本研究では、児童教育を専攻する1年生を対象とした一般教養科目において、映画を活用し教室英語の指導を行う。科目の中で英語の理解を深め、将来小学校教諭となる可能性のある学生の英語力のボトムアップを図るのはいうまでもなく、理解補助を促す活動として本活動を行うことで、将来授業指導に必要な表現を身に付けさせるのが狙いである。

本研究において実施する活動では一般的な娯楽映画(DVD)を教材として使用する。映画はその娯楽性というまでもなく、最も身近で容易にオーセンティックな英語と触れることができる、非常に優れた英語教材となりうるものである。指導の際には映画のエンターテインメント性を用い学生の興味を十分に喚起しつつ、学生たちが将来指導者として必要となる英語による指導表現を学ばせる。しかしながら、授業内での活動は時間の制約上きわめて限られたものとなる。そのため本研究では授業内での成果だけでなく、学生たちが自ら映画を学習ツールとして用い、授業時間外に主体的に英語学習に取り組めることを目指す。

本稿では、児童教育を専攻する学生に対し、その職業性にちなんだ教室英語の指導を、映画に登場する表現を通して行うことで、学生たちがどの程度その英語活動に「やる気」を感じたのか、そして授業外においてどの程度主体的に学習を行ったのかを検証する。

## 2. 対象

本研究の対象となるのは、鹿児島女子短期大学（以下「本学」）児童教育学科に所属し、筆者が担当する一般教養科目「英語演習Ⅱ」を受講する1年生56名である。そのうち、37名が小学校二種免許状・幼稚園教諭二種免許状・保育士証を取得可能な小幼保コースに所属し、19名が幼稚園教諭二種免許状と保育士証を取得可能な幼保コースに所属している。

本研究を行う前に、上記学生を対象に英語に関する意識調査アンケートを行った。このアンケートは授業実施前の学期始めに行ったものであり、有効回答は54名から得られた。その結果、「英語が好きか」という問いに対し、「かなり嫌い」1名、「嫌い」3名、「どちらでもない」31名、「好き」16名、「かなり好き」3名という結果が得られた。また、「英語が得意か」という問いに対しては、「かなり苦手」7名、「苦手」18名、「どちらでもない」21名、「得意」7名、「かなり得意」1名という結果が得られた。以上の結果から、英語が嫌いだと感じる学生は少数であるものの、苦手意識が強い学生は多いという傾向をうかがい知ることができる。

また同学生を対象に、映画に関する事前調査も行った。質問項目は洋画（DVD等）の年間視聴数と字幕・音声の設定についてである。年間の視聴数について、「0作品」20名、「1～3作品」25名、「4～9作品」6名、「10～20作品」1名、「それ以上」1名という結果が得られた。字幕と音声の設定については、「日本語吹き替え・字幕なし」33名、「日本語吹き替え・英語字幕」1名、「日本語吹き替え・日本語字幕」3名、「英語音声・日本語字幕」16名という結果が得られた。つまり、対象学生たちは海外の映画自体になじみが薄く、見たとしても大半の学生がいわゆる「日本語吹き替え版」で視聴しているという実態が明らかとなった。

映画は日常的に、最も身近で手軽に英語に触れることができるツールであるといえる。しかし、対象となる学生たちの多くはほとんど海外の映画を見る習慣がなく、また多くの学生が日本語でそれを見る傾向にある。学生たちがいわゆる「英語嫌い」を自認していないにも関わらず、英語に苦手意識を抱いているのは、学生たちにとって、英語がそれほど日常からかけ離れた縁遠いものであるためだと考えられる。

## 3. 実施

### 3.1 使用作品

本研究では、4作品の映画から教室での指導表現を抽出し、授業内でのグループ活動とリスニング、および授業時間外学習用教材として用いた。作品の選定基準は、教育現

場が舞台である作品、または教室での指導の場面が含まれる作品であることである。また、学生たちが時間外学習に使用する際の利便性を考慮し、本学附属図書館にDVDが所蔵されている作品から選定した。以上の条件から、*Jack* (1995)、*Mr. Holland's Opus* (1996)、*Catch Me If You Can* (2002)、*Daddy Day Care* (2003) の4作品を用いた。*Jack* は小学校、*Mr. Holland's Opus* は高校、*Daddy Day Care* は保育所を舞台とした作品であり、*Catch Me If You Can* には高校での授業指導の場面が含まれている。

### 3.2 ワークシート

本研究の実施の際には、1回分のワークシートをA4サイズの用紙1枚に収め、活動毎に配布した。ワークシートには授業内の活動で用いる項目と、授業外学習用の項目を設けた。授業時の活動に用いた項目の例を以下に示す。

例) 授業時の活動に用いた項目

1. セリフクイズ 次のセリフは英語でどう表現する？  
グループで話し合おう。

①授業を始めましょう

We'll \_\_\_\_\_.

(似た表現) Let's \_\_\_\_\_.

②静かにして

Everybody c\_\_\_\_\_.

(似た表現) Be \_\_\_\_\_.

授業内の活動では、映像視聴前にグループでの話し合いを行わせ、表現の予想を立てさせた。クラスメイト同士で正解を予想しあうことで、互いにコミュニケーションをとらせながら、事前にヒントとなるアイデアを共有させる狙いがある。そして映像を視聴後、ディクテーションを行わせた。また、映画から得られる表現のみでは不十分な場合も多いため、ディクテーション終了後、必要に応じて類似表現や関連表現についてグループで検討を行わせた。

一方、授業外学習用に作成した項目は以下の通りである。

例) 授業外学習用に作成した項目

2. 映画を見て調べよう（自主学習用）聞き取るか、字幕を英語に変えて確認しよう。

○21:00-26:00に出てくるセリフ

・ゆっくり（気軽にね）

Take \_\_\_\_\_.

・もっと大きな声で

A little \_\_\_\_\_.

・おいで（ついてきて）

- F \_\_\_\_\_ me.
- ・いいかね（準備はいい？）
- Now, \_\_\_\_\_ Jack?
- ・入って
- \_\_\_\_\_, please.
- ・大丈夫だよ（恥ずかしがらないで）
- Don't \_\_\_\_\_.
- ・質問は？（誰か答えて）
- A \_\_\_\_\_ ?

ディクテーション用に穴埋め形式を用いた。日本語訳は、DVDの訳に加え、必要に応じて英語表現の意味により近いものをおおきこ内に示した。学生たちは実際に自身で映画を視聴したうえで、該当箇所の聞きとり、および字幕を英語に切り替えての表現確認を行うことが可能である。

ワークシートには以上の2項目を設け、教室英語および早期英語教育に役立つと思われる表現について授業内外で学習を行わせた。

### 3.3 使用表現

本活動で用いた表現一覧は巻末のAppendix1に示す。先述した4作品から、教室英語、および早期英語教育にふさわしいと思われるあいさつ等の基本的な会話表現を選んでいる。Appendix1では、それらの表現を、文部科学省(2017:118-123)に示された「クラスルームイングリッシュ」に従い分類している。

授業内に映像を用いてディクテーション等を行わせた表現の数は19である。さらに、関連表現としてグループワークでの検討を行わせた表現を合わせると41となる。そのうち26の表現が文部科学省(2017)による分類に該当する。授業内の活動用には、例えば教科書の指示をする“Let's go to the text. We turn to page 4”のようなかなり使用頻度が高いと思われる表現や、“We'll get start it”と“Let's start our English class”のような、使用頻度が高く、かつ関連表現が重要なため授業内での解説が必要となる表現を中心に選んでいる。

一方、授業外学習用に聞き取り等を行わせたのは47表現である。そのうち、文部科学省(2017)の分類に該当するのは30表現である。授業外学習用には、「ほめる」「励ます」といった、比較的短く簡単であり、授業内での指導が必要と思われる表現を中心に選んでいる。

Appendix1を見ても明らかのように、授業内で扱うことができる表現は、時間の制約上かなり限られる。そのため、本研究では授業外で学生が主体的に本活動に取り組むことが極めて重要になる。

### 3.4 実施

本活動は半期の授業全15回中11回実施した。授業の冒頭20分程度を用い、毎回5分から7分程度映像を視聴したうえで、グループワークを通じての表現の予想、映像を用いての聞きとり、および関連表現の考察を行わせた。授業内で用いた映像については、聞き取り等を行う箇所を含む場面を7分以内で抜粋した。学生の関心を高めるため可能な限り物語が伝わるよう努めたが、不足する場合は口頭でストーリー展開の解説を加えた。また、本研究で用いる4作品については、各作品を用いる初回にYoutubeで予告編(Trailer)を視聴させた。予告編を用いるのは、短時間で物語の大筋をつかませることが主な目的であるが、本来観客の興味を集めるために制作されるものであり、それを用いることで、作品に対する学生の関心や期待値をおおる狙いもある。

授業時には、先述したワークシートを配布し、活動を行った。まず映像を見る前に4名程度のグループでその表現の予想を行わせた。映画の音声は、リスニング教材としては難易度が高い場合が多いが、この事前予想を通して、学生たちはある程度の手がかりを得ることが可能である。また、グループは可能な限り異なるクラス・ホームのメンバー構成となるよう配慮している。そうすることで、学生たちは普段それほど付き合いがないメンバー同士で協働し、意見を出し合うことになる。そのため中には熱心な議論が見られないグループもあったが、授業を通し他者とのコミュニケーションスキルを磨くうえでも重要な手順であると考えられる。

次に物語をたどるための映像(7分以内)を視聴し、その映像に含まれる指導表現等についてディクテーションを行わせた。その際、学生の反応から聞き取りが難しいと判断された場合は、Windows Media Playerの拡張機能を用い、再生速度を落として再生した。ディクテーション終了後は、英語字幕を表示した該当箇所を流し、正解の確認を行った。その後、類似表現や関連表現がある場合は、改めてグループで話し合いを行わせ、グループ内で指導者の台詞を発話させた。以上が授業時における活動の流れである。

一方、授業外学習については、配布したワークシートのすべての回に、その作品で抑えるべき表現一覧を穴埋めの形で印刷した。また、その枠には「映画を見て調べよう(自主学習用)聞き取るか、字幕を英語に変えて確認しよう」と活動内容を指示し、授業時にも積極的に自主学習を行うよう声掛けをした。本研究の主な目的は学生たちに教室英語の表現を身に着けさせるものであるため、授業外学習については、授業時と同様ディクテーションを行うか、字幕を英語に切り替えて表現を確認してもよいものとした。ま

た、授業外学習については、学生の主体性を重視し、課題とする等の強制はしなかった。

## 4. 調査と結果

### 4.1 調査方法

本研究の成果を測るため、授業最終回にアンケートを実施した。対象学生は本活動が行われる「英語演習Ⅱ」受講生の56名である。主な調査項目は、本活動に対する学生の自己評価と、授業外学習の有無についてである。実施アンケートの全項目はすべて Appendix2に示すが、本稿では、本研究に関わる項目のみに言及する。

### 4.2 結果

まず本活動に関する質問項目として、活動の魅力、自身の積極性、英語理解への有益性、映像の難易度の4項目を設け、5段階で評価を行わせた。結果は表1に示す。

表1 活動に関する問い

①～③ 1:全く該当しない, 2:該当しない, 3:どちらでもない, 4:該当する, 5:とても該当する  
④ 1:とても簡単, 2:簡単, 3:適度, 4:難しい, 5:とても難しい

質問項目	平均値
①活動に魅力を感じた	4.41
②活動には積極的に参加できた	3.98
③英語の理解に役立った	4.25
④活動の難易度	3.21

魅力に関する項目では、「どちらでもない」が5名、「該当する」が22名、「とても該当する」が28名であり、有効回答のあった55名のうち50名(90%)と極めて多くの学生が活動に魅力を感じていたことが明らかとなった。次に学生の積極性に関する項目であるが、「どちらでもない」が13名、「該当する」が30名、「とても該当する」が12名であり、42名(76%)の学生が自身を積極的だったと評価している。そして英語の理解に関する項目では、「どちらでもない」7名、「該当する」26名、「とても該当する」21名であり、47名(85%)の学生たちが実感として、本活動が英語理解に役立っているととらえているということがわかった。なお、上記3項目について、「まったく該当しない」および「該当しない」はいずれも0名であり、本活動がおおむねポジティブにとらえられていたことがわかる。また、難易度に関する項目では「とても簡単」1名、「簡単」2名、「適度」37名、「難しい」16名とやや分散したが、多くの学生にとって、使用した映像・音声に適した難易度であったことが明らかとなった。以上から、授業内における教室英語の活動については、学生にとって非常に魅力あるものであり、学生自身も積極的に参加することが可能な活動であったといえる。また、学生たちは自分たちに適した

難易度で、英語力を身に着けていると実感することができる活動だったといえる。

次に使用した作品に関する質問を行った。ここでは、学生たちが授業で扱った作品の中から、どの作品に特に魅力を感じたのかを質問した。回答は複数回答を可とした。結果は表2に示す。

表2 魅力を感じた作品(複数回答可)

作品名	回答数	%
<i>Jack</i>	27	48%
<i>Mr. Holland's Opus</i>	10	17%
<i>Catch Me If You Can</i>	10	17%
<i>Daddy Day Care</i>	46	82%

学生たちが特に興味を示した作品は *Daddy Day Care* であり、56名中46名(82%)が選んでいた。それに次いで *Jack* であり、27名(48%)の学生が選んでいた。一方で、*Mr. Holland's Opus* と *Catch Me If You Can* を選んだ学生はいずれも10名(17%)と、上記2作品に比べ少数にとどまった。

次に授業外学習に関する項目を見る。先述した通り、授業内での活動は時間の制約上きわめて限定的であり、教室英語に関する十分な指導は行えない。そのため、この項目は本研究にとって極めて重要なものとなる。しかしながら、授業外で実際に作品を見たと言った学生数は12名(21%)にとどまった。なお、実際に作品を見た際の音声と字幕の設定については、日本語吹き替えが3名、日本語音声英語字幕が1名、英語音声日本語字幕が5名、英語音声英語字幕が2名、英語音声字幕なしが2名であった。英語音声で視聴した9名中、4名は英語字幕または字幕なしで視聴しているが、英語だけの視聴という難易度の高さから、その4名については十分に英語学習につながる活動を自主的に行っているものといえる。

一方で映画を視聴した学生の中で、実際にワークシートを用いて授業外学習を行ったかについて、「行った」と答えた学生はわずか4名(7%)という結果にとどまった。また行った活動として、セリフの聞きとりを行ったのが3名、字幕を英語に切り替えて表現を調べたのが1名であった。以上から、本研究は授業外学習の面ではほぼ機能していないという結果が得られた。なお、映画を見ることさえなかった学生に対して、その理由を問う質問をしていたが、44名中37名(84%)が「時間がなかった」を選択していた。

### 4.3 考察

アンケート結果から、本研究における授業時の活動は学生にとって非常に魅力を感じるものであることがわかった。これは映画を用いることで学生たちの関心を高めると

いう本研究の狙い通りの結果であるといえる。また、積極性についてもほとんどの学生が「積極的だった」「とても積極的だった」と回答しており、本活動に挑む際の学生たちの高いモチベーションをうかがい知ることができる。また実際に、この学生たちの自己評価は、授業時の学生たちの様子にも認められたものである。

学生が興味を抱いた作品については、児童教育を専攻する学生の特性がよく表れており、非常に興味深い傾向が見られたといえる。学生たちの人気は *Daddy Day Care* と *Jack* に集中しており、特に保育所を舞台とする *Daddy Day Care* については、46名 (82%) もの学生が選んでいた。一方で、高校を舞台とした *Mr. Holland's Opus* と *Catch Me If You Can* を選んだ学生は少数であり、ともに10名 (17%) だった。ここで興味深いのは、小学生および未就学児が多く登場する2作品が学生たちの人気を集めている点である。先述した通り、*Jack* は小学校、*Daddy Day Care* は保育所を舞台とした作品であり、それぞれに多くの子ども (児童・未就学児) が登場する。これは言い換えると、学生たちは、自身の目標となる職業により近い舞台を描いた作品を好む傾向にあるといえる。本研究で扱った4作品については、「教室」が舞台となる点のみを選定の基準にしていたが、学生たちは、さらに具体的に自身が将来関わることになる小学校や保育所といった教育現場を描いた作品に興味があり、高校を舞台とした他の2作品よりはるかに魅力的に感じられていることがわかるのである。その意味では、本活動は学生たちの将来の目標と密接につながりうるものであり、作品選択の際にはその点を考慮に加えることで、より大きな成果に繋がると考えられる。

授業外学習の面では、ワークシートを用いての活動を行った学生はわずか4名 (7%) と極めて少なかった。また、単なる娯楽ともいえる映画を見るという点に限定しても、自主的に見たという学生数は12名 (21%) にとどまった。その結果から、本活動が授業内での活動から脱し切れていないことは明らかであるといえる。

しかしながら、映画視聴さえ行わなかった44名のうち37名 (84%) の学生が、その理由として「時間がなかった」を選んだという結果は、本研究の今後を考えるうえで非常に重要である。本研究の対象となる学生たちは、短期大学在学中の2年の間に、幼児教育に関わる2つないしは3つの国家資格を取得することになる。そのスケジュールは確かにタイトであり、ほとんど空きコマのない時間割をこなしながら、授業時間外にも研修・実習の準備・実施をしている。対象の学生たちが自由に過ごせる時間は、一般的な大学生に比べかなり少ない。その中で学生を自主学習へと導くには、視聴に2時間を要する映画は適さないというこ

とが、この結果から考えられるのである。そのため、より短時間で、気軽に取り組める手法の検討が今後必要であるといえる。

## 5. 結び

本研究では、児童教育を専攻する学生を対象に、教室英語指導のための映画を活用した活動を実施した。授業内で実施した活動は、魅力的な活動と評価されており、学生たちのモチベーション向上につながるものであったといえる。しかしながら、授業外学習においては、実施したと答える学生はごくごく一部に限られるものであった。

先述した通り、本研究は、授業内の限られた指導時間のみでは不十分であり、その成果を得るには、授業外学習を学生たちが主体的・積極的に行うことが必要不可欠である。しかしながら、短期大学の2年間で小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状、保育士証といった国家資格の取得を目指す対象学生たちは、非常に多くの授業を履修せねばならず、自由に過ごすことができる時間は少ない。そのことを考慮し、例えば映画ではなく1時間以内のドラマを利用すること、スマートフォンで閲覧可能な環境を整えること、あるいはSNSを活用した授業外学習の機会を設けることなど、学生がより気軽に、より短い時間で取り組める活動を検討する必要があるだろう。

なお、本研究では学生への動機づけと授業外学習の観点から本活動の効果を測ったが、教室英語の指導自体の効果検証は一切行っていない。この活動が学生たちに与えた学習上の効果については今後の研究で測ることにする。

## 引用文献・資料一覧

- Carr, S. (Director), Davis, J., Godfrey, W. & Berenson, M. (Producers). (2003). *Daddy Day Care* [Motion Picture]. United States : Columbia Pictures.
- Coppola, F. (Director), Mestres, R., Coppola, F. & Fuchs, F. (Producers). (1996). *Jack* [Motion Picture]. United States : Buena Vista Pictures.
- Herek, S. (Director), Field, T., Cort, R., Nolin, M. & Duncan, P. (Producers). (1995). *Mr. Holland's Opus* [Motion Picture]. United States : Buena Vista Pictures.
- Spielberg, S. (Director), Spielberg, S. & Parkers, W. F. (Producers). (2002). *Catch Me If You Can* [Motion Picture]. United States : DreamWorks Pictures.
- 福和寛晴, 中津楯男. (2014). 「小学校教員を志望する大学生の小学校外国語活動に対する不安度の調査」『愛知教育大学研究報告教育科学編』, (63), 203-210.
- 木原美樹子. (2017). 「小学校教員を目指す学生の英語に関する意識と今後の課題：外国語活動を担当するにあたって」. 『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』, (49), 77-82.
- 松宮新吾. (2013). 「小学校外国語活動担当教員の授業指導不安に

かかわる研究：授業指導不安モデルの探求と検証」『研究論  
集』, (97), 321-338.

文部科学省. (2017). 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブッ  
ク』.

(2018年8月2日 受理)

## Appendix 1 授業時・時間外学習用に用いた表現一覧（分類別）

授業時に合わせて考察させた表現は「関連表現」として示す

文科省による分類	授業時に用いた表現	授業外学習用の表現
授業のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ We'll get start it. (<i>Jack</i>: 00:26:36) (関連表現) Let's start our English class.</li> <li>・ Take out your notebooks. (<i>Jack</i>: 00:42:36) (関連表現) Take out your textbooks.</li> <li>・ Let's take a seat, little quickly please. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:07:19)</li> <li>・ We'll get start it. (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:20:20)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Now, are you ready, Jack? (<i>Jack</i>: 00:24:11)</li> <li>・ Okay, class. Let's begin our lesson today. Turn to page 173. (<i>Jack</i>: 01:41:53)</li> <li>・ Just take a seat please. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:26:24)</li> <li>・ Take your seats. (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:20:20)</li> </ul>
児童への指示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Everybody, calm down. (<i>Jack</i>: 00:27:00) (関連表現) Be quiet.</li> <li>・ Let's go to the text. We turn to page 4. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:08:45)</li> <li>・ Don't stop playing. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:34:37) (関連表現) Don't stop singing. / Don't stop running.</li> <li>・ Please open your textbook to chapter8. (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:20:18) (関連表現) Please open your textbook to page 36.</li> <li>・ Raise your hands if you don't know how to read. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:25:56) (関連表現) Raise your hands if you know the answer.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A little louder. (<i>Jack</i>: 00:23:00)</li> <li>・ Follow me. (<i>Jack</i>: 00:23:12)</li> <li>・ Come in please. (<i>Jack</i>: 00:24:33)</li> <li>・ You ready? Okay, here we go. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:08:58)</li> <li>・ Miss Aronson, would you stand up, please? (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:10:03)</li> </ul>
活動中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Everybody, take one. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:25:31)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Anybody? (<i>Jack</i>: 00:25:53) (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:08:00)</li> <li>・ Don't be late. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:03:38)</li> <li>・ Do it again. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:33:57)</li> </ul>
授業の終わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ That's enough for today. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:14:43) (関連表現) That's all for today.</li> <li>・ I'll see you tomorrow. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:14:44)</li> <li>・ See you later. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:03:48) (関連表現) See you tomorrow / next week / in the next class / soon.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I'll see you tomorrow. (<i>Jack</i>: 01:09:16)</li> <li>・ Have a nice day. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:05:08)</li> <li>・ Same time, same place, tomorrow. Thank you very much. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:49:25)</li> <li>・ Take care. (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:53:10)</li> </ul>
ほめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Very good work. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:14:45)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Congratulations! (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:53:37)</li> <li>・ Okay, great, more drawings. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:53:03)</li> <li>・ Pretty good. (<i>Daddy Day Care</i>: 01:00:10)</li> </ul>
励ます		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Take it easy. (<i>Jack</i>: 00:21:15)</li> <li>・ Don't be shy. (<i>Jack</i>: 00:24:33)</li> <li>・ I just want you all to relax. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:08:50)</li> <li>・ Okay, okay. That wasn't bad. That wasn't bad at all. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:14:33)</li> <li>・ I bet you do. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:16:12)</li> <li>・ Don't be afraid. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:26:55)</li> <li>・ Try again from the top. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 01:23:50)</li> <li>・ Don't worry. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:03:38)</li> <li>・ Don't you worry. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:14:44)</li> <li>・ Good luck with that. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:22:05)</li> <li>・ Don't worry. It's gonna be okay. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:31:10)</li> </ul>

(文科省による分類外) その他指導・活動に関わる表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ We have the assignment. (<i>Jack</i>: 00:42:37)</li> <li>・ Mr. Sullivan, what kind of music do you like to listen to? (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:26:53)</li> <li>(関連表現) What kind of food do you like? / What kind of study do you like?</li> <li>・ Now Put your hands up! Now wave them. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:47:39)</li> <li>(関連表現) Put your hands down. / Raise your right (left) hand. / Stop it. / Stand up. / Sit down. / Clap your hands.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Do you understand that? (<i>Jack</i>: 01:11:12)</li> <li>・ What do you think? (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:08:00)</li> <li>・ How about you? (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:26:57)</li> <li>・ Wrong. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:27:41)</li> <li>・ Let me ask you a question. (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:33:38)</li> <li>・ We have a lot of fun. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:14:44)</li> <li>・ Who'd like to start? (<i>Daddy Day Care</i>: 00:52:00)</li> <li>・ Okay, what else? (<i>Daddy Day Care</i>: 00:52:45)</li> </ul>
(文科省による分類外) その他日常表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Hey, I'm home. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:18:29)</li> <li>(関連表現) Welcome back. / How was your day?</li> <li>・ Please call me Charlie. Niece to meet you. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:06:59)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Really? (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:15:30)</li> <li>・ You kidding? (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:29:16)</li> <li>・ Alright, have a good time! (<i>Mr. Holland's Opus</i>: 00:54:34)</li> <li>・ Excuse me. What's your name? (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:20:33)</li> <li>・ Ma, I'm home. (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:23:06)</li> <li>・ Have a seat. (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:41:18)</li> <li>・ How may I help you? (<i>Catch Me If You Can</i>: 00:43:25)</li> <li>・ How do you do, Benjamin? It's a pleasure to meet you. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:06:50)</li> <li>・ Thank you for your time. (<i>Daddy Day Care</i>: 00:09:00)</li> <li>・ Pooch, how was your first day at school? (<i>Daddy Day Care</i>: 00:10:57)</li> </ul>

## Appendix2 最終アンケート

英語演習Ⅱ 2018/01/21実施

## 英語演習Ⅱ 英語・映画に関するアンケート

1. あなた自身について、該当する番号に○をつけてください。

① 所属コースを教えてください

1 小幼保コース 2 幼保コース

② 英語は好きですか？

1 かなり嫌い 2 嫌い 3 どちらでもない 4 好き 5 かなり好き

③ 英語は得意ですか？

1 かなり苦手 2 苦手 3 どちらでもない 4 得意 5 かなり得意

④ あなたの目標とする将来に英語は必要だと思いますか？

1 まったく不要 2 あまり必要ない 3 どちらでもない 4 少し必要 5 かなり必要

2. この授業で行った「映画で学ぶクラスルームイングリッシュ」の活動について、該当する番号に○をつけてください。

① この活動に魅力を感じましたか？

1 まったく感じなかった 2 あまり感じなかった 3 どちらでもない 4 少し感じた 5 とても感じた

② 活動には積極的に参加できましたか？

1 まったくそうではない 2 あまりそうではない 3 どちらでもない 4 そうだった 5 とてもそうだった

③ この活動は英語の理解に役立ったと感じますか？

1 まったくそうではない 2 あまりそうではない 3 どちらでもない 4 少しそうだ 5 とてもそうだ



④ 活動の難易度はどうでしたか？

- 1 簡単すぎた 2 少し簡単だった 3 適度な難易度だった 4 少し難しかった 5 難しすぎた

3. この活動に関するご感想をどうぞ。

4. この活動で紹介した映画について、最も魅力を感じた作品に○をつけてください。(複数可)

- Jack ( ) …人の4倍の早さで年をとる小学生の話  
 Mr. Holland's Opus ( ) …高校の音楽の先生の話  
 Catch Me If You Can ( ) …詐欺師の高校生の話  
 Daddy Daycare ( ) …リストラされたサラリーマンが保育園を始める話

5. この活動で紹介した映画を、授業時間外で見ましたか？

はい ⇒見た作品の ( ) に○をつけて「6」へ

- Jack ( ) …人の4倍の早さで年をとる小学生の話  
 Mr. Holland's Opus ( ) …高校の音楽の先生の話  
 Catch Me If You Can ( ) …詐欺師の高校生の話  
 Daddy Daycare ( ) …リストラされたサラリーマンが保育園を始める話

いいえ ⇒「7」へ

6. 「5」で「はい」(見た)と答えた人に質問です。

① 映画を見た場所・方法を教えてください。

- 1 短大附属図書館 2 自宅(レンタルDVD等) 3 インターネット・スマホ等  
 4 その他 ( )

② 見たときの音声と字幕の設定を教えてください。

- 1 音声：日本語 字幕：なし  
 2 音声：日本語 字幕：英語  
 3 音声：日本語 字幕：日本語  
 4 音声：英語 字幕：日本語  
 5 音声：英語 字幕：英語  
 6 音声：英語 字幕：なし  
 7 その他(音声： 字幕： )

③ 「映画を見て調べよう(自主学習用)」の活動はしましたか？

はい(実施した内容を選択)

- 1 セリフを聞き取った 2 英語字幕を見て調べた 3 その他 ( )

いいえ(以下から実施しなかった理由を選択)

- 1 なんとなく 2 面倒だった 3 時間がなかった 4 (活動に) 魅力を感じなかった  
 5 難しすぎた 6 意味が分からなかった 7 その他 ( )

7. 「5」で「いいえ」(見なかった)と答えた人に質問です。

以下から見なかった理由を選び、番号に○をつけてください。(複数可)

- 1 なんとなく 2 面倒だった 3 時間がなかった 4 (作品に) 魅力を感じなかった  
 5 (活動に) 魅力を感じなかった 6 すでに見たことがあった  
 7 その他 ( )

8. 授業で紹介した作品以外の映画について、この1年の間に以下のことをしたことがありますか？

- ・英語の音声で映画を見た Y / N  
 ・映画の気になるセリフを聞き取った Y / N  
 ・英語字幕を見てセリフを調べた Y / N  
 ・映画のGoofs(IMDB.com)を自分で調べた Y / N  
 ・その他英語学習につながること ( )